

みんなのお家「ハルハウス」～支え合いの灯台を目指して～

水島小学校にほど近いハルハウスでは、子ども食堂の活動や、その活動にまつわる様々な団体、ボランティアの交流の拠点となっています。地域の困りごとを抱える世帯や、そうでない世帯にも、食べ物をシェアして、分かち合う喜びや楽しさを伝えています。子ども食堂の活動の開始から、今年の夏でまる5年。ハルハウスという常設の居場所を開設して1年数か月。毎月200～300名の方がこの場を訪れ、月一回のフードシェア会では30世帯100名以上を支援しています。まだまだ混迷の続く社会状況にあって、地域の助け合いはその必要度合いを増しています。お互いさまの精神は、災害時などに特に日本の美德とされるところですが、コロナ禍などを含めた現状はまさに「緩やかな災害」が常時起きているかのよう。支え合い、助け合いのネットワークをさらに広げていけるよう、ご理解とご支援賜れば幸いです。



代表 井上正貴

ハルハウスでは、食品をはじめ、生活用品等の物資の寄付、居場所の維持費として寄付金によるご支援もお願いしています。詳しくはフェイスブックをご覧ください。(右のQRコードからどうぞ)



水島学区女性部 (愛育委員会)の活動
女性部長 江本 千春

令和3年度も新型コロナウイルスの影響で市の委託事業・学区事業共に多くが中止となりましたが、3歳児健診・地区研修会等一部の事業に参加させていただきました。

8月のレントゲン検診では、急に会場変更がありご迷惑をおかけしてしまいました。

コロナ禍の活動には制限や不便もありますが、毎月の友愛訪問は感染対策を取りながらお声掛けや見守りをさせていただいています。

一日も早くコロナが終息し、皆様が健康で安心して暮らせる地域づくりのお手伝いができればと思っていますので、ご協力をお願いいたします。

倉敷市水島高齢者支援センター

水島学区社会福祉協議会の皆様には、平素より高齢者支援センターの活動にご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

倉敷市水島高齢者支援センターは倉敷市からの委託を受け、地域にお住いの高齢者と家族のさまざまな相談に応じる機関です。

介護保険の申請や、足腰が弱ったので運動したい。膝や腰が痛くて買い物やゴミ出しに困っているなどサービスに関する事、認知症に関する事等さまざまな相談が寄せられています。分からないことがあれば気軽にご連絡ください。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域での活動が思うようにできない一年でした。来年度は水島学区の皆様と一緒に、いきいきと安心して生活できる地域を目指して活動していきたいと思っております。

令和3年12月から、太田社会福祉士が配属されています。小林社会福祉士は法人内の相談員として勤務しております。大変お世話になりました。新たな体制で頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。



水島学区社協だより

令和3年度

編集発行: 令和4年3月 水島学区社会福祉協議会
発行責任者: 岡 浩二

水島学区標語

「大人も子どもも笑顔であいさつ」

『水島学区の皆様へ』



水島学区社会福祉協議会
会長 岡 浩二

水島学区社会福祉協議会会員の皆様にはお元気で過ごしてのことと拝察いたします。今年度も我が学区の行事は、前年度に続いて、新型コロナウイルスの感染防止のため、その多くは中止したことにより、学区住民の皆様とお会いすることが少なくなりました。残念なことではありますし、自然災害等の有事に備えた地域のコミュニティのつながりが希薄になることを心配しています。我が学区の高齢化率は、直ぐにでも40%を超える予想されています。高齢化やコロナの感染予防を理由に、お家に引きこもってばかりではないでしょうか。

今、倉敷市や市社会福祉協議会は、高齢者の居場所づくりや健康年齢を伸ばすための様々な取り組みを推進しています。私たちも、関係機関との調整を図りながら、皆様の豊かな暮らしと健康に役立つ事業を行うて参りますので、一層のご支援・ご協力をお願いいたします。

『地域の皆様とともに歩む社協』



社会福祉法人 倉敷市社会福祉協議会
水島事務所長 妹尾 和治

新型コロナウイルスが今年の初めから非常に猛威を振るっているということもありまして、予断を許さない状況が続いております。

新型コロナウイルスへの対応が長期化するなか、感染予防対策にご苦勞されながら活動を継続していただいていること存じます。

皆様健康には十分注意してご活躍ください。

また、皆様には、平素より、会員募集・赤い羽根共同募金・地域歳末たすけあい運動など倉敷市社会福祉協議会運営に、ご理解とご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

皆様から寄せられた会費や募金や寄付は、私たちの活動財源として活用させていただいております。

市社協は、地域でおこる様々な生活課題を地域の皆様と一緒に考え、保健・医療・福祉などの関係者、行政機関の協力を得て、「誰もがいつまでも住み慣れたまちで安心して暮らせるまちづくり」をめざして活動を行う公共性・公益性の高い民間の団体です。活動に当たっては、やはり地域の中で活躍をされていらっしゃる、皆様の力が重要です。

どうか、これからも、ご協力をよろしくをお願いいたします。



幼保連携型認定こども園

小ざくら保育園

水島北幸町の幼保連携型認定こども園 小ざくら保育園です。同じ水島学区の一員として、地域の皆さまには日ごろからお世話になっています。新型コロナウイルスの影響により、交流する機会も少なくなり、ちょっぴり寂しさを感じていますが、そのような中でも、子どもたちの経験や体験を増やすために、数多くのご協力をいただきありがとうございます。私たちも地域を元気に、活性化できるよう、地域の皆さまとともにがんばりますので、今後ともよろしく願いいたします。

立派なおみこしをいただきました！



北春日町「さくら会」さんから「小ざくら」へ！



朝早くから組み立てていただきました



水島神社の七五三でもお世話になりました



ありがとうございます！



子どもたちと一緒に町内を歩いていただきました



ホームページやインスタグラムもチェック！！



小ざくら乳児保育園の園舎が新しくなっています

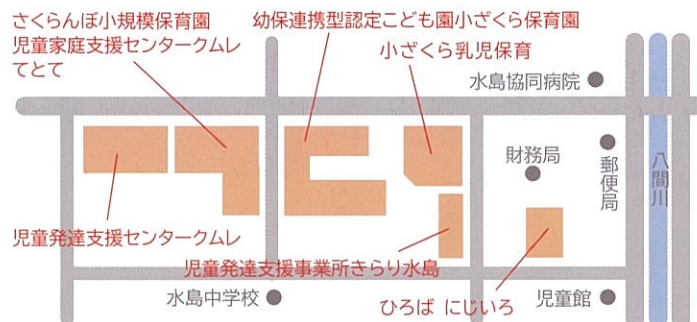


2020年12月に建て替えたばかりの新しい園舎です。3階には「地域交流スペース」があり、災害時には要配慮者を受け入れる福祉避難所として活用する予定です。

非常用発電機も用意しました



※要配慮者(災害時要援護者)とは、高齢者、障害のある方、妊産婦、乳幼児・児童、日本語に不慣れな外国人など、災害発生時に必要な情報の把握や一人で避難することが難しい人、避難生活などが困難な人のこと。



くもレ ~ともに育ち ともに生きる~
cumre

私たち社会福祉法人くもレは、戦後のこの水島の地において、脳性麻痺の子を抱えた母子世帯との出会いにより、保育園を立ち上げました。以降、障がいの有無や年齢、性別などに関わらず、誰もが自分らしく生活できる地域を目指し、地域の皆さまとともに「まちづくり」に取り組んでいます。

笑顔と思いやりに包まれた水島っ子



倉敷市立水島小学校 教頭 山本純平

私は子どもの頃、石けりをしながら帰るのが好きでした。自分で決めた宝物(石)をどこまで連れて帰れるか。まわりに気を配ることも忘れ、迷惑をかけたかと反省します。

交通事故や不審者事案など、昔以上に危険が増えた現在は、児童の安心安全が最優先されます。「石けり」や「寄り道」などは許されません。そんなとき、子どもの心をいやすのは、見廻組の方々の笑顔と思いやりです。「お帰り～！今日はどうじゃった？」「どしたん？元気があ。」笑顔の子どもには笑顔で、機嫌を損ねた子どもには優しく、いつも親しく寄り添ってくださいます。

水島小には87名の児童がいますが、見廻組の登録数は44名。子ども二人に大人が一人付き添って安全を見守る計算になります。この恵まれた環境は、地域の方の努力の積み重ねによるものと感謝します。児童にはしっかりと「あいさつ」を指導し、元気なあいさつで恩返しができるよう努力していきます。引き続き「あかるく やさしく たくましい」水島っ子の教育にご参加いただけるようお願い申し上げます。



いつも子どもたちの安全・安心のために、ありがとうございます。



防災講習会を開催しました

倉敷市防災危機管理室の職員を講師に迎え、令和3年11月7日、水島学区コミュニティ会館において、防災講習会を開催しました。

市内でも、平成30年7月には真備地区において西日本豪雨災害が発災しました。

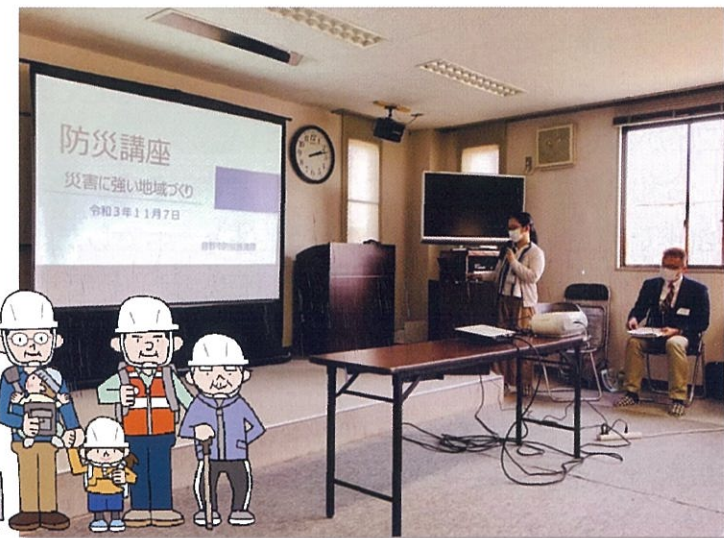
今後、倉敷市においては東南海・南海地震の発生が予測される中、大規模災害への備えについて、学びを深めました。

いざという時の備えのため、自主防災組織の結成が求められています。

市内でも自主防災組織の結成がなかなか進まず、水島学区では一つの支館で自主防災組織が結成されているところです。

今回の講習会を契機に水島学区内でも自主防災組織の結成が進んでいけたらと思います。

自主防災組織の結成に関心をお持ちの支館がございましたら、市の職員さんが出前講座で地域に出向いて説明してまいりますので、私や岡会長にお声がけ頂ければ幸いです。



水島学区社会福祉協議会 顧問 時尾 博幸

